



こんにちは。山登り好きの「岳」です。
山好きな私が吉野川の分水嶺を歩きながら、読者の皆様に吉野川流域の山々の素晴らしさと現状を紹介したいと思います。

第4回は、祖谷川流域の天狗塚から小檜曾山^{こびそやま}を経由して、南小川流域の小檜曾林道の豊永峠(流域図参照①)、鳴門市の大麻山から大坂峠(流域図参照②)までを紹介します。

7月17日曇りのち晴れのますますの登山日和に天狗塚から小檜曾山を歩きました。

登山口は、三好市東祖谷久保の国道439号沿いから、まずは4月29日に行った天狗塚に向かいました。

天狗峠に到着すると、以前歩いた三嶺方面は生憎、雲がかかって残念ながら見ることは出来ませんでした。天狗塚方面は晴れてきて綺麗な三角錐の天狗塚が見え、また、この時期に咲く、コメツツジが咲いていました。

天狗峠から綱附森に向かう稜線は、ブナ林があり、7月の暑い時期でしたが、暑い下界に比べて、エアコンがかかっているかのように涼しくて快適でした。



コメツツジ



アキノタムラソウ



天狗峠より見た三嶺方面



天狗峠から見た天狗塚



ブナ林の中を歩く

しばらくブナ林を歩きそこを抜け、ササ原に出ると綱附森の素晴らしい景色が見え、振り向くと先ほど天狗峠から見た綺麗な三角錐の天狗塚と牛ノ背も綺麗に見えました。

次に綱附森から矢筈峠を経由して、矢筈峠の登山口から土佐矢筈山、その後小松曾山を目指しました。小松曾山に向かう稜線もササ原で周辺の山々がよく見え快適な登山道でした。



天狗塚・牛ノ背



綱附森から見た土佐矢筈山



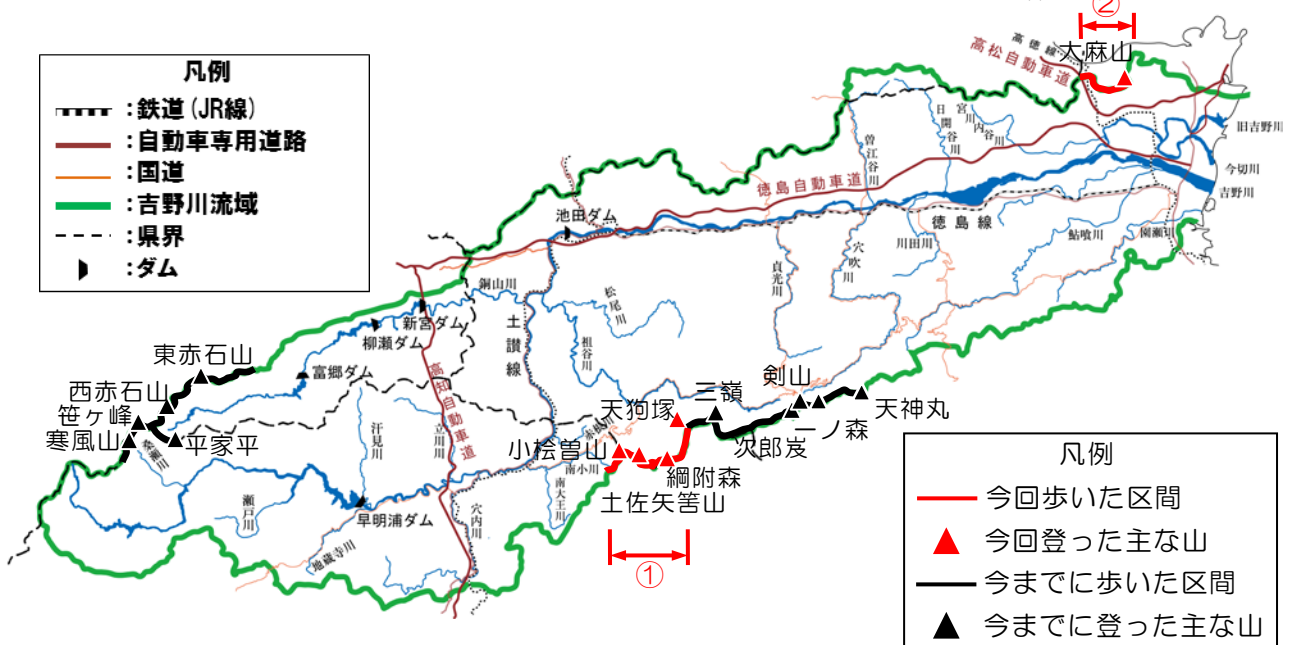
ササ原の登山道から小松曾山に向かう

8月26日この日も曇りのち晴れのますますの登山日和に7月17日の続きで小松曾山から西方面の小松曾林道の豊永峠まで歩きました。

登山口は京柱峠登山口から小松曾山を経由して西方面の分水嶺を歩きました。このルートは、ほとんど登山をする人がいないルートで、笹や藪を掻き分けての登山となりました。



ブナ林



藪を抜けるとブナ林が何箇所もあり、快適な空間が広がっており、ブナ林は笹も生い茂ってなく歩き易かったですが、これは鹿による食害により笹がなくなった状態で、本来なら笹が生い茂り地表面が見えない空間だったということです。

また、木が密集して生えているところが点在している異様な空間がありました。それは、笹が何かの理由で無くなった時に成長した木が、再び笹で覆われた後に同じ場所でたくさんの幹を出したもので、今では鹿の食害により木の周辺の笹がなくなり、地表面が表れ、木が残された状態になったそうです。

このルートには、見事な大きなブナの木や枯れた大きなヒノキなどがありました。また、根の上がった変わったヒノキもありました。

今回歩いたルートは登山道はきれいに整備されていけませんので、登山にはお勧めできませんが、ブナ林のきれいな分水嶺でした。



鹿の食害により笹がなくなり木が残された状態



今回の終点小松曾林道の豊永峠



大きなブナの木



枯れた大きなヒノキ



根上がりヒノキ



ヤマジノホトトギス



タカネオトギリ



シコクフウロ



ツリガネニンジン



リョウブ



ケツネノボタン



ツクサ



ヤシャビシヤク

最後に、8月5日曇りのち晴れのますますの登山日和に、鳴門市にある大麻山から大坂峠に行ってきました。

大麻山は、大麻比古神社の奥宮・峰神社として親しまれている山です。大麻山へは大麻比古神社の境内を通過して、神社の北側にある登山口から大麻山に登りました。この登山道は「四国の道」にもなっており、香川県側に繋がっています。

大麻山から西へ繋がっている四国の道から見る徳島平野の景色はいい眺めでした。

「四国の道」は、四国全域に散在する様々な歴史・文化・自然を体感するための道で、歴史・文化指向の国土交通省ルートと自然指向の環境省ルートがあります。一度散策してはどうでしょうか？ 詳細は、以下のHPをご覧ください。

四国の道 <http://www.skr.mlit.go.jp/road/smiti/smitigai.html>



大麻比古神社の祓川橋



大麻比古神社から見た大麻山



四国の道



四国の道から見た吉野川・眉山

◇今回歩いた距離 47.7km

◇今回歩いた分水嶺の距離 23.0km 今まで歩いた距離 67.1km / 全長約 402km

◇分水嶺制覇まで、残り 335km